

第2A(小)分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 学校・家庭・地域が一体となり子どもたちの「生きる力」を育む教頭としての役割
サブテーマ 三者が一体となってつくる体験活動をどう仕組んでいったかー
討議の柱 子どもの発達のために教頭として三者の調整をどう進めるか。

提言者 豊後高田市立草地小学校 都 甲 幸 子

1 質 疑

- (1) Q 地域から要望が多くなり、教育課程から逸脱しすぎることはないか。
A 現在の勤務校では年間計画を地域の方と話し合っているので多くなることはないが、前任校では当日の依頼等があった。その時は、地域とのつながりを大切に考えて参加を優先し、次年度には教育課程に組み入れた。
- (2) Q 草地小学校の4つのコミュニティを詳しく教えてほしい。
A チャレンジコミュニティは、郷土の伝統文化の継承等。安全コミュニティは子どもたちの登下校等での安全。学びコミュニティは、授業にサポーターとして参加して頂き授業をより活性化している。環境コミュニティは、環境整備や清掃活動。

2 協 議

- (1) CSでは地域コーディネーターのリストアップをしているので、教頭が連絡調整しやすい。しかし、関係が深くなりすぎるとお互いに難しくなるので学校側が主体になって取り組むことが大切。
- (2) 体験活動を積んだ子どもは、学力も高いといわれる。大切な活動ではあるが、PTAやCSを進めるにあたっては効率化も考えなければならない。また、「生きる力」になっているかどうかの総括をしながら取り組む必要もある。

3 指導助言

- (1) 学校運営協議会のねらいは、学校だけで子どもを育てる時代ではないこと、学校長が学校運営を私物化しないことにある。単に地域と連携して活動をするだけでなく、そうすることによってどんな効果があるのかを考えなければならない。学校と地域が抱えるそれぞれの課題を出し合いゴールに向かって共通の課題を設定したうえで取り組み、年度末に総括することが大切。
- (2) 地域と共に学校行事をするなら、参加するのみで良しとするのか教育課程のどの部分と連動するのかを明確にし、取捨選択する。また、全校で活動するならば、学年によって「行事の目的・活動・評価」がありゴールが異なるので、そのためにどのような調整が必要になるのか教頭中心に各担当が考える必要がある。
- (3) 学校・地域・PTAがそれぞれWin-Winの関係になるようにそれぞれが責任を持って取り組み、毎年進化させていく。
- (4) 校長が目標とゴールを決めたら、どう戦略をたてどう組織をつくりどう人を動かすかが教頭の仕事であり、それにおもしろみや誇りを感じてほしい。